



令和3年11月12日

報道機関 各位

東北大学東北アジア研究センター

仙台藩士の古文書 調査成果を公開 加美町・北家文書 江戸時代を解き明かす手がかりに

【発表のポイント】

- 宮城県加美町の古文書「北家文書」の調査を実施し、全点の撮影と内容を把握できる文書目録(1点ごとのリスト)の作成を完了し、ホームページ上で公開しました。
- 江戸時代、伊達政宗の家臣となった北家は、代々仙台藩士として、現在の加美町内に領地を与えられていました。
- 仙台藩主の伊達家をはじめとして、江戸時代の武家文書はよく知られていますが、藩政の実務を担当した藩士の実像がわかる貴重な歴史資料です。
- 今後、撮影画像も公開します。これらの利用が格段に進み、仙台藩の武士に関する研究が深化すると期待されます。

【概要】

東北大学東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門では、2020年度より北家文書(加美町教育委員会所蔵)の調査に取り組んできました。このほど全482点の撮影と目録作成が完了し、「加美町北家文書目録」を部門ホームページ上で公開しました。撮影画像についても、50点程度をオンライン公開する予定です。

江戸時代に仙台藩士であった北家は、現在の加美町内に領地を与えられていました。また、藩の役職としては若年寄(わかどしより)などの要職を歴任しました。北家文書のなかには、こうした領地や役職に関する古文書や、武芸を習得した証である免状、学問関係の書籍などが伝わっています。

これまで一部の古文書や絵図が研究利用されていましたが、今回の調査により、北家文書の全容が初めて解明されました。加えて、調査成果である目録や画像を公開し、どなたでも利用できる状態とすることで、仙台藩政や地域史に関してさらなる研究進展が期待されます。

【詳細】

北家文書は、北家のご子孫から加美町教育委員会に寄贈された古文書です。東北アジア研究センター上廣歴史資料学研究部門では、同教育委員会から許可を得て北家文書の調査に取り組んできました。

このほど、野本禎司助教の主導で古文書全 482 点(画像は 3,867 コマ)を撮影し、荒武賢一朗教授・鈴木淳世学術研究員が古文書を 1 点ごとにリスト化した「加美町北家文書目録」を作成しました。

東北アジア研究センターでは、さまざまな分野の研究資料をオンライン公開する「地域研究デジタルアーカイブ」事業を推進しています。北家文書についても同事業の一環として画像データベースを構築し、約 50 点を公開する予定です。

【文献情報】

加美町北家文書目録:

https://uehiro-tohoku.net/system/wp-content/uploads/2021/10/kamimachi_kitake_rist.pdf

利用案内:

https://uehiro-tohoku.net/system/wp-content/uploads/2021/10/kamimachi_kitake_guide.pdf



【参考情報】

○研究部門ホームページ:

北家文書以外にも様々な古文書の目録や解説文を公開しています。

<https://uehiro-tohoku.net/survey/survey04>

○北家文書の紹介記事:

<https://uehiro-tohoku.net/works/2021/2854.html>

〈記事で取りあげている古文書〉

①申渡書(史料番号 K3-327)

1694 年、北家の禄高が増されたときに仙台藩から発出されたもの。

②池田政綱書状(史料番号 K1-1)

北家文書のなかで最古のもの(1623 年)。仙台藩主・伊達家の親戚である播磨国赤穂藩主・池田政綱から、仙台藩関係者に宛てて出された書状。

【問い合わせ先】

東北大学東北アジア研究センター

担当 荒武賢一朗、藤方博之

電話 022-795-3196/3140

E-mail uehiro@grp.tohoku.ac.jp